

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第19号—

令和元年8月21日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

夏休みも残り10日余りとなりました。

楽しく過ごした夏休みも間もなく終わりを迎えようとしています。そろそろ、子供たちの生活モードも学校バージョンへと変更され始めていることと思います。

夏休み中も全児童が大過なく過ごすことができているのも、保護者や地域の皆様のお陰と感謝しているところです。残り10日余りですが、引き続き子供たちの安全安心な生活が送れますよう御協力をお願いします。



【自転車教室を実施しました】

いじめ防止基本方針について

津吉小学校の「いじめ防止基本方針」の見直しを行いました。修正した基本方針は、津吉小学校ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

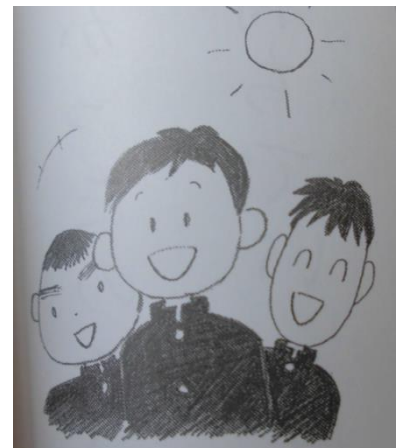
登校日の校長講話

本日、「あいさつ」について、下記のような講話を行いました。

今から、四十年くらい前、昭和五十年ごろのお話です。平戸の南部にある津吉という町に、一人のおじさんがやって来ました。おじさんは、長崎の町から仕事の関係で、この町に引っ越してきたのです。おじさんは、電報電話局につとめていました。津吉局の局長さんになったのです。家族と離れ、おじさんは、一人でこの町に住むようになりました。はじめての町で、知り合いの人もいなかったので、おじさんは、不安な気持ちとさびしい気持ちでいっぱいでした。長崎の家族のところに帰りたいなあ……。と、何度も何度も思っていました。

ある朝のことでした。おじさんがいつものように電報電話局の前の道をそうじしていると、後ろのほうから、「おはようございます。」と、大きな声が聞こえてきました。おじさんは、おどろいて後ろをふり帰りました。すると、そこには黒い制服を着た中学生の男の子が三人立っていました。おじさんは、知らない自分に声をかけてくれた男の子に、ほほえみながら、「おはよう！」と、あいさつを返しました。おじさんのあいさつで男の子たちも笑顔になりました。それを見て、おじさんの心は、スーッとしました。今までさびしかった心が、パーッと明るくなりました。

次の日から、おじさんは、少し早めにそうじをすませて、電報電話局の



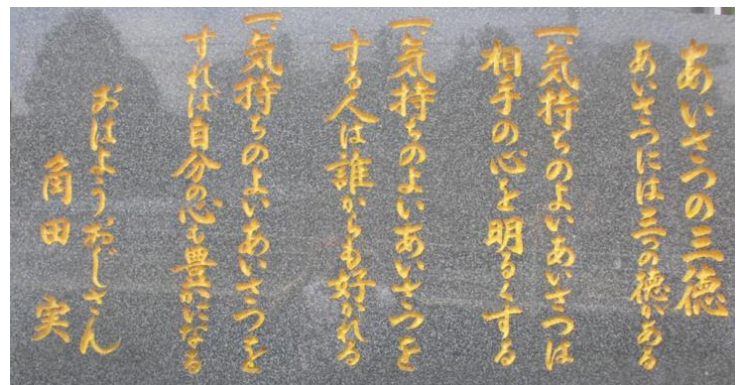
前に立つようになりまして。毎朝、登校する小学生・中学生の子どもたちにあいさつをしようと考えたのです。目の前を通る子どもたちに、「おはよう！」と、自分から声をかけるようになりまして。声をかけられた子どもたちは、最初、この人だれ？というような顔をしていましたが、毎朝のおじさんのやさしい声を楽しみにするようになりまして。

雨の日も、風の日も、そして夏の暑い日も、冬の寒い日も、毎日毎日、おじさんは、電報電話局の前に立って、学校へ通う子どもたちに、「おはよう！」と、声をかけました。おじさんと子どもたちのかわす朝のあいさつは町中に広がり、やがて、おじさんは子どもたちから、『おはようおじさん』と、よばれるようになりまして。運動会や野球の試合、サッカーやバレーボールの大会など、お休みの日も子どもたちを応援するおはようおじさんの姿がありました。おじさんは、子どもだけでなく、町のたくさんの人といろいろなふれあいをしました。そんな時も、子どもにあいさつする時と同じで、おじさんは、いつも笑顔でした。おじさんは、自然と大人の人たちからも、『おはようおじさん』とよばれるようになりまして。おはようおじさんは、津吉の町の大切な大切な人になっていったのです。



それから三年の月日が流れ、おじさんは、仕事のつごうで、長崎の町に帰らなければならなくなりました。その時、子どもたちは、悲しくて泣きました。大人の人も別れをおしめました。でも、おじさんがつくってくれた「あいさつの町」を子どもたちがしっかりと受け継ぎました。おじさんが長崎に帰った後も、毎朝、子どもたちがあいさつの声を町中にひびかせたのです。おじさんは、長崎に帰っても津吉の子どもたちに手紙を書き、いろいろな行事のたびに津吉の町を訪れ、子どもたちに、心からのあいさつと笑顔をふりまいてくれました。いつも津吉の子どもたちを愛してくれたのです。

そんな津吉の子どもたちが、立派に成長して、成人式を迎えるとき、決まって「おくりもの」が届けられました。送り主は……「おはようおじさん」です。そして、成人式の「おくりもの」といっしょに、おじさんは、必ず一枚の手ぬぐいをプレゼントしてくれました。その手ぬぐいには、「あいさつの三徳」の言葉が書かれていました。この言葉は、今、記念碑となって、津吉小学校の校門のそばに立てられています。おはようおじさんは、あいさつが人と人をつなぐ「たからもの」であることを、



多くの人に教えてくれたのです。

おはようおじさんは、平成6年に長崎で亡くなりました。

おじさんが亡くなってもう二十五年たちますが、あいさつを大事にするおじさんの心は、いつまでもいつまでも、子どもたちの心の中に、そして、津吉の町にのこっています。「おはようございます」今日も、子どもたちは、明るく元気な声をひびかせます。そんな子どもたちを、『あいさつの三徳』の記念碑は、温かく、静かに見守っているのです。

